

目黒会 北海道支部 令和4年度 支部総会

日時： 令和4年9月24日（土） 16時15分より

会場： ホテル札幌ガーデンパレス 宴会場、並びに ZOOM 利用によるリモート併催

参加者： 梅澤英行（1972B）、水谷祐輔（1999M）、酒井裕司（1974P）、吉井 透（1979I）
麻田直人（1972JR）、倉田健治（1990N）、西村仁志（2009E）、藤川朋大（2010J）
木内明德（1986T）、工藤久良（1971JE）、長堀弘典（1995E）、本庄 良哉（1982R）

来 賓： 電気気通信大学 阿部浩二 理事、目黒会 森 淳 会長

他支部会員： 今井高介（長野支部長、理事）、坂藤繁夫（北陸支部）、傘義冬（首都圏総支部）

Web 参加： 山本隆也（1959JT）、竹田智彦（首都圏総支部長、理事）、屋敷誠二（中国地方支部長）
順不同

総会議事：

令和3年度 北海道支部活動報告、支部収支報告

令和4年度 活動予定（これまでの活動報告）、予算案報告

いずれも拍手にて承認

支部代表代議員選出（報告）

一般社団法人目黒会では2年ごとに代議員を選出しており、7月5日に支部代表代議員を選出するように本部（選挙管理委員会）より依頼がありました。先の役員会において、現支部代表代議員である本庄良哉さんの留任を提案し承認されましたので、選任届を提出いたしました。

支部役員改選

前支部長であり現役員である宮本さんより、役員を辞したい旨の申出がありました。役員会ではご本人の意思を尊重し退任いただくこととし、後任の検討をいたしました。推挙がありました上田健一さんに就任を打診しましたところ、快諾いただけました。役員は総会にて選任するとの規程がありますので、役員会推薦として提案いたします。 →→ 拍手にて承認

なお、任期は本来2年ですが、任期途中の交代のため、来年の総会までとなります

来賓挨拶・講演：

阿部浩二 電気通信大学理事

○UECビジョン ～beyond2020～

・美麗秀句からの脱却、より具体的なビジョンを提示

『～私たちが思い描く society5.0 すなわち「共創進化スマート社会」の実現に向けて～』
共創進化スマート社会推進機構を 2022/4 設置

○「実践型 UEC データサイエンティスト養成プログラム」が政府の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」にて『応用基礎レベル+』に選定された。

大学単位では6校、学部学科単位で3学部

○カーボンニュートラルの取り組み

円筒形太陽電池：多方向からの受光で発電量が多い、風の影響をうけにくい、設置や維持管理が容易 →→ 都市型自己消費設備として好適。

東京都知事の訪問を受けた（2022/4/25）。

○最近の電通大の自慢

・ネットアンケートで高評価を受けている

「名前がかっこいい」「卒業生が優秀」・・在校生などの票もあるようだが、自分の学校に自信や誇りをもってくれている証（学長談）

○UEC ウクライナ等国際的人道支援基金を創設

森 淳 目黒会会長 1967 通信工学科

○今年度より会長に就任

・学生時代、目黒会でアルバイトをしていた。

退職後、2012 年より事務局に入局。2015 年から事務局長

○会長就任にあたって

・直近の目標：コロナ禍で中止になった各種イベントの再開

・会員間交流の活性化（中期）

・同窓会の在り方の再考

○会員サービス委員会の設置

・ホームページに『同窓会ラウンジ』を新設。気軽に参加できる場の提供。

→ 積極的な投稿をおねがいします <https://megurokai.jp/home2/>

手始めに、お国自慢（北海道 PR、地酒、グルメ、名所、温泉・・・）を

道外支部からの出席者 自己紹介 傘さん、今井さん、坂藤さん

※ 傘さんから「毎年のように北海道支部総会におじゃまして私からの勝手なお願いだが、AIR などが混雑する 9 月の連休は避けてほしい」という声があり、支部長から「支部会員からも『家族サービスのタイミングでもあるので、連休は避けてほしい』という声がある」との話があり、来年以降の総会次期について検討する方向となった。

特別講演会

アビオニクス・コンサルタンツ・ジャパン 麻田 直人 様 (1972JR)

「空飛ぶコンピュータ」（航空電子システムの現状と展望）

○航空技術の進歩と変遷

初めての動力飛行（1903 年 12 月 ライト兄弟）からまもなく 120 年。ライト兄弟の後、1927 年：大西洋横断、1935 年：近代的旅客機の原点 DC-3 デビュー、1949 年：初の本格的ジェット旅客機が登場。当初からの 50 年ほどで今の飛行機の原型が出来上がった

○航空機のコンピュータシステム

1967 年 B737, 1969 年 B747 が登場しほぼ今の形が完成。それ以降は「安全性、経済性、快適性、環境性の進化」。それにはコンピュータシステムの存在が大きな役割を果たしてきた。

安全面では、初期は人間がコンピュータシステムの上位にいたが、近年はコンピュータの劇的な進化もあり、様々な事故分析の知見の蓄積や地形データを活用した事故回避なども出来るようになり、コンピュータシステムの判断が人間の判断の上位となるようになった。

さらに、経済面、環境面で優位に運航するためにコンピュータを活用している。

※最新の技術では、視界 0 であっても自動着陸は可能だが、緊急時の対応や空港外の交通運用の点で実行されていない。（着陸できても空港から出られない）

○航空電子システムの将来展望

各種センサーの高度化、小型化がすすみ（1950 年代に人の体より大きかった 3 軸ジャイロが手の中にすっぽり入るサイズになっている）、「空飛ぶ車」の実現が目の前、いやほぼ実現されている。

日本でも大阪万博を目指し実用化の動きが進んでいる。航空技術面ではないところの整備（通信環境、法制度、社会的合意形成）がポイントになりそう。

懇親会

17時25分より懇親会を開始。

「やはり対面での懇親がいいね」「元気だった?」「はじめまして・・・」沢山の笑顔と笑い声があふれました。北海道支部会員やWeb参加者の近況紹介も交えながら、いくつもの輪をつくりながら話題は尽きず、お開きまでの2時間余、盛会となりました。

懇親会前に記念写真 (敬称略)



水谷 吉井 梅澤 森会長 西村 酒井 傘 藤川 倉田
麻田 工藤 阿部理事 本庄 木内 今井 坂藤

懇親会風景



※目黒会では従来の『卒年(元号2桁)＋学科略号』での表記をやめ、『入学年(西暦4桁)＋学科名称』を使用しておりますが、文中では文字数の関係から『入学年(西暦4桁)＋学科略号』を使用しています。